

事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日: 令和 6年 2月 1日

公表: 令和 6年 2月 15日

事業所名 _____

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		目的に合わせてパーテーションを使う。	
	2	職員の配置数は適切である	○		利用人数や状況に合わせて職員配置数を適切に考えている。	
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		トイレはバリアフリーになっている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		その日の療育場所について個室・フロアなど、本人の特性やその日の課題に合わせてしている。	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		日々の業務においては朝の打ち合わせや終業後のフィードバックで実施している。	
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		保護者からの意見は少なかった。保護者の意向については、把握し、改善につなげている。	改善点を公表し、積極的に利用してもらえシステムづくりをする。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		結果については、小木こどもファミリークリニックのHPIに公開した。	独自のHPはないが、評価の結果については小木こどもファミリークリニックのHPIに掲載している。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか		○	外部評価は行っていない。	外部評価については検討を要する。今回の自己評価を基に改善すべきものは改善を行う。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		研修への積極的参加。Webを利用して基礎的なことを学ぶ機会を作った。	会議での事例検討をの回数を増やす。
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		職員間で利用者の評価を行い、意見を持ち寄って計画を作成した。	
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		標準化アセスメントツールを用いて均等に評価をする。	
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○			
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		支援計画を見るところに置き、誰でも確認できるようにした。	
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	○			
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○			
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	○			
17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○				

	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○			
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		必ず記録をするようにしている。記録に時間がかかるなど、負担が大きい現在の記録方法を変更することを検討する。	
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		半年、または3か月に一度モニタリングを行うようにした。	
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		担当者会に参加するのは、サービス管理責任者であるが、担当者会前には、子どもを療育をする職員に意見を聞くようにした。	担当者会后、全員に担当者会の結果を伝えるようにした。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○			
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	/	/		
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	/	/		
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		実際のコアラの様子を見てもらったり、園での様子を聞く機会を設けた。	園や学校との情報共有は有効だったので、今後も計画的に行っていきたい。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		入学・進級に合わせて学校からの問い合わせが多かったが、その都度、訪問し、話し合った。	家族に、入学・進級時に学校の希望があれば事業所と情報提供をすることができる旨を伝え、計画書の提示・会議の機会を作る。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○			
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○		
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○			
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		日々のフィードバックで共通理解が図れるようにした。希望があれば、相談の時間を設けた。	今後も、親からの希望があれば相談に応じていく。また、親が一人で抱え込まないように、家族の様子にも気を付けていく。
31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	○			今年度、ペアレントトレーニングを行うことを小児科に貼りしたが、希望者はなかったため、表示方法などを検討する。	
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		分かりやすく丁寧な説明をするように心掛けている。	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○		作成はガイドラインに基づいて作成する。保護者には丁寧な説明を行って同意を得る。	
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		希望があれば、個別に相談の時間を設けるようにしている。	フィードバックで相談に応じているが、保護者の様子を見て個別相談ができることを伝える。もっと積極的な利用ができるように伝えていきたい。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○	父母の会設立はなかったが、中学生を中心に進学問題について経験談を聞ける機会を作った。	父母の会の活動に関しては行わないが、進学等の問題について、経験談を聞ける機会を定期的に作っていきたい。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		相談の申し出は月に1-2件、進級・入学時に集中したが、調整しながら行った。	

守	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○			
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○		鍵をかけられるロッカーに保管。	
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○			
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○		
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○		入り口の目の付きやすい場所に設置した。	子どもでも分かりやすいものを、準備し、いつでも確認できるようにする。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○			
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○		内服が始まった人については、全員で確認。癲癇等の疾患についても周知徹底をする。	内服をしている人については、ファイルに印をつける等、職員が把握できるようにする。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている				
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		ヒヤリとすることは悪いことではない、むしろ、気が付いてよかった、を合言葉に積極的に書くようにした。	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		予め開催日を決めて行っている。	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○			

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。